

不妊女性のメンタルヘルスとそのケア

山本 篤／杉本 公平*／吉川 直希／大野田 晋／南 哲司／
岩端 威之／小堀 善友**／岡田 弘***

Summary

不妊治療技術の進歩とともに不妊症に社会的な関心が集まるようになった。通常診療で心理的サポートを行うことは難しい課題であるが、治療不成功例などに対してスピリチュアルケアなどのコミュニケーションスキルを用いて心理的サポートを行うことが望ましい。不妊の原因を主に女性に求めてきたわが国特有の歴史もあり、心理的問題は不妊女性に対して着目されてきたが、女性側のサポートのみならず男性側の心理サポートも今後の課題である。遺伝医療やがん・生殖医療など幅広い情報提供と心理社会的支援が今後ますます重要になると考えられ、共有意思決定のようなプロセスに対する理解が必要であると考えられた。

Key words

不妊症●心理的サポート
男性不妊●共有意思決定
スピリチュアルケア●がん・生殖医療
遺伝医療●里親・養子縁組

Atsushi Yamamoto, Kohei Sugimoto,
Naoki Yoshikawa, Shin Oonota, Tetsuji Minami,
Toshiyuki Iwahata, Yoshitomo Kobori, Hiroshi Okada
獨協医科大学埼玉医療センターリプロダクションセンター
センター長*, 副センター長**, 統括責任者***

生殖医療に対する心理的問題

生殖医療の大きなブレイクスルーは、1978年に英国で世界初の体外受精児が誕生したことは論を俟たない。わが国では不妊症という領域はあまり語られることのない領域であったが、体外受精の登場により社会の関心が集まるようになった。古くから儒教の影響で「嫁して3年子なきは去る」という考えが根付いている環境に置かれていた不妊患者、特に不妊女性の心理的問題にも関心をもたれるようになった。海外では早くからこの問題に取り組んでおり、不妊女性の心理的特性として「不安感」「抑うつ感」が挙げられていた¹⁾⁻³⁾。わが国でこの問題に取り組んだ初期の研究としては松林の報告が挙げられる⁴⁾。この報告でわが国の不妊女性の心理的問題が明らかになり、特に男性の心理的サポートが不十分であることが明らかになった。そして、2002年には日本不妊カウンセリング学会、2003年には日本生殖医療心理カウンセリング研究会(現 日本生殖心理学会)が各々設立され、不妊患者の心理的問題に関する多くの研究報告がなされ、学会認定の患者の心理的サポートをはじめとした不妊患者ケアの専門職を育成してきた。それらの職種が世界最多の施行件数であるわが国の体外受精を支えてきたといっても過言ではない。

一方で、不妊治療をはじめとする生殖医療の世界はこの10年ほどで大きな変貌を遂げている。従来、不妊患者への心理的サポートのために必要な情報提供としては、複雑な体外受精の治療過程の